

## 第4章 ごみ・資源物量

## 1 収集の状況とリサイクル率

(1) 収集量・持込量の年度別実績 (表 4-1)

単位 [t]

区 分		平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)
①収集人口[人] (10月1日現在)		562,781	563,327	563,538	562,522	562,828
収 集 量	② 可燃ごみ	84,823	85,216	83,592	83,295	83,691
	③ 不燃ごみ	5,433	5,190	5,040	4,573	4,604
	④ 粗大ごみ	2,261	2,373	2,120	2,282	2,586
	⑤ 有害ごみ	345	372	337	345	352
	⑥ 資源物	32,556	31,608	31,136	30,933	31,379
	⑦ 不法投棄ごみ	23	24	16	22	15
	⑧ 側溝清掃ごみ	106	108	104	119	80
	計	125,547	124,891	122,345	121,569	122,707
持 込 量	⑨ 事業系可燃ごみ	29,574	27,725	26,427	25,121	26,478
	⑩ 家庭系可燃ごみ	2,489	2,359	2,061	1,787	1,501
	⑪ 家庭系不燃ごみ	967	883	865	772	622
	⑫ 拠点資源物	1,126	546	482	436	404
	計	34,156	31,513	29,835	28,116	29,005
合 計		159,703	156,404	152,180	149,685	151,712
資源集団回収量		8,226	7,901	7,615	7,301	6,926
総ごみ量		167,929	164,305	159,795	156,986	158,638

単位 [g/(人・日)]

原 単 位 ( 収 集 量 ま た は 持 込 量 / ①/ 3 6 5 日 ま た は 3 6 6 日)	収 集 量	可燃ごみ	412	414	406	406	406
		不燃ごみ	26	25	25	22	22
		粗大ごみ	11	12	10	11	13
		有害ごみ	2	2	2	2	2
		資源物	158	154	151	150	152
		不法投棄・側溝清掃	1	1	1	1	1
		計	610	608	595	592	596
		持 込 量	事業系可燃ごみ	143	135	129	122
	家庭系可燃ごみ		12	11	10	9	7
	家庭系不燃ごみ		5	4	4	4	3
	拠点資源物		5	3	2	2	2
	計		165	153	145	137	141
	合 計		775	761	740	729	737
	資源集団回収量		40	38	37	36	33
	総ごみ量		815	799	777	765	770

※収集人口には外国人登録者数を含む。

※平成27年度(2015年度)の拠点資源物には、本庁及び学校の紙資源を含む。

※令和元年度(2019年度)は上記とは別に、令和元年度東日本台風で発生した345tの市内の災害廃棄物(災害等廃棄物処理事業費国庫補助金交付要綱の適用を受けて処理を行ったもの)及び広域支援ごみ(栃木県鹿沼市:141t、宮城県大崎市:81t)を処理している。

(2) 資源物の戸別回収状況 (表 4-2)

単位 [t]

区 分		平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)
古 紙	新 聞	2,029	1,829	1,674	1,452	1,439
	ダ ン ボ ー ル	4,097	4,122	4,132	4,186	4,439
	雑 誌 ・ 雑 紙	10,092	9,520	9,147	9,164	9,208
	紙 パ ッ ク	118	118	118	115	112
	計	16,336	15,589	15,071	14,917	15,198
空 き び ん		4,453	4,330	4,238	4,057	3,936
空 き 缶		1,495	1,452	1,413	1,394	1,417
古 着 ・ 古 布		2,439	2,380	2,412	2,463	2,622
容器包装プラスチック		5,854	5,853	5,967	6,025	6,107
ペ ッ ト ボ ト ル		1,979	2,004	2,035	2,059	2,074
剪 定 枝		—	—	—	18	25
合 計 ⑥		32,556	31,608	31,136	30,933	31,379

(3) 資源物の拠点回収状況 (表 4-3)

単位 [t]

区 分	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)
新 聞	37	24	22	15	9
ダ ン ボ ー ル	256	179	151	136	129
雑 誌 ・ 雑 紙	828	339	306	281	262
紙 パ ッ ク	1	1	(0.5未満)	1	1
は が き	4	3	3	3	3
上 履 き ・ 靴	—	(0.5未満)	(0.5未満)	(0.5未満)	(0.5未満)
合 計 ⑫	1,126	546	482	436	404

※雑誌・雑紙にはシュレツダー紙を含む。

※平成27年度(2015年度)には、本庁及び学校の紙資源を含む。

※0.5未満の実績について、紙パックは、平成29年度(2017年度): 440 kg、上履き・靴は、平成28年度(2016年度): 100 kg、平成29年度(2017年度): 100 kg、平成30年度(2018年度): 280 kg、令和元年度(2019年度): 330 kgとなっている。

(4) 資源集団回収状況 (表 4-4)

単位 [t]

区 分	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)
新 聞	3,607	3,260	3,011	2,688	2,358
ダ ン ボ ー ル	1,360	1,393	1,382	1,388	1,367
雑 誌 ・ 雑 紙	2,559	2,531	2,501	2,501	2,450
紙 パ ッ ク	80	81	81	81	80
生 き び ん	5	6	6	6	5
雑 び ん	53	59	60	55	55
ス チ ー ル 缶	38	39	40	41	40
ア ル ミ 缶	169	169	167	168	173
古 着 ・ 古 布	346	355	358	365	391
金 属 く ず	9	8	9	8	7
計	8,226	7,901	7,615	7,301	6,926
補 助 金 額 [円]	63,577,360	61,473,707	59,450,569	57,170,374	54,625,437
団 体 数 [団体]	390	388	388	389	389

(5) 資源化量の年度別実績 (表 4-5)

単位 [kg]

区 分		平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	
⑬ 取 集	新聞	2,028,930	1,828,650	1,674,090	1,451,820	1,439,100	
	ダンボール	4,096,560	4,122,410	4,132,320	4,185,840	4,439,520	
	雑誌・雑紙	10,092,470	9,519,650	9,146,730	9,163,990	9,207,620	
	紙バック	118,180	117,620	117,600	115,320	112,440	
	空きびん	4,360,670	4,171,320	4,040,110	3,884,490	3,694,800	
	スチール缶	813,600	759,315	700,070	672,600	670,910	
	アルミ缶	578,155	590,685	612,170	626,170	646,205	
	古着・古布	2,438,990	2,379,650	2,412,000	2,463,530	2,621,810	
	容器包装プラスチック	5,029,140	5,005,380	5,037,760	5,146,730	5,227,960	
	ペットボトル	1,590,310	1,636,240	1,612,100	1,696,310	1,660,690	
容ブラ・ペットボトル残渣	—	—	29,220	1,760	—		
剪定枝	—	—	—	17,670	24,940		
計		31,147,005	30,130,920	29,514,170	29,426,230	29,745,995	
⑭ 持 込	拠点資源物						
	古紙	1,126,130	546,550	482,320	435,650	403,540	
	はがき	(3,860)	(3,320)	(3,160)	(2,730)	(2,930)	
	上履き・靴	—	100	100	280	330	
計		1,126,130	546,650	482,420	435,930	403,870	
⑮ 中 間	戸吹清掃工場						
	鉄	435,100	414,920	330,940	367,050	424,380	
	焼却灰	7,673,840	7,327,320	6,875,630	6,500,400	7,103,781	
	小 計	8,108,940	7,742,240	7,206,570	6,867,450	7,528,161	
	北野清掃工場						
	鉄	61,380	52,260	56,940	53,390	55,150	
	焼却灰	2,760,000	2,597,330	2,659,300	2,598,790	2,732,167	
	小 計	2,821,380	2,649,590	2,716,240	2,652,180	2,787,317	
	戸吹不燃物 処理センター	鉄	1,295,850	1,154,240	1,012,610	1,195,610	1,205,250
		非鉄金属	266,950	292,460	268,620	297,200	295,270
自転車		156,660	143,090	145,130	144,270	148,870	
小型家電		658,350	727,570	743,120	162,480	157,174	
基板等		—	—	—	4,050	2,090	
2次乾電池		1,170	—	—	—	—	
スプレー缶等		105,150	129,950	132,320	132,800	132,600	
雑線		31,540	15,240	47,990	44,550	39,470	
ガラス陶磁器		98,190	179,850	150,930	124,760	102,290	
傘等		—	77,010	74,420	77,370	88,810	
ゴルフクラブ	—	—	—	—	4,270		
フロン回収品	—	5,330	7,160	5,690	8,190		
不燃残渣	—	—	5,300	44,320	32,807		
その他	42,000	44,290	36,750	53,520	32,580		
小 計	2,655,860	2,769,030	2,624,350	2,286,620	2,249,671		
粗大再生品	113,805	82,852	77,148	72,616	67,750		
乾電池・蛍光管	80,037	81,500	84,430	168,830	81,564		
中 計	2,849,702	2,933,382	2,785,928	2,528,066	2,398,985		
プラスチック 資源化センター	容器包装ブラ	(5,029,140)	(5,005,380)	(5,037,760)	(5,146,730)	(5,227,960)	
	ペットボトル	(1,590,310)	(1,636,240)	(1,612,100)	(1,696,310)	(1,660,690)	
	容ブラ・ペット残渣	—	—	(29,220)	(1,760)	—	
小 計	(6,619,450)	(6,641,620)	(6,679,080)	(6,844,800)	(6,888,650)		
多摩清掃工場	鉄	149,450	159,070	139,250	167,670	173,500	
	非磁性物/落塵灰等 (R1~)	25,810	39,320	41,800	42,040	76,900	
	焼却灰	2,785,760	3,070,600	3,100,780	3,300,980	3,170,090	
小 計	2,961,020	3,268,990	3,281,830	3,510,690	3,420,490		
多摩清掃工場 不燃・粗大 処理施設	鉄	443,690	420,140	415,870	447,430	411,230	
	非鉄金属	35,570	30,950	32,260	34,340	30,200	
	自転車	10,070	7,450	3,930	3,310	5,350	
	基板等	600	520	210	250	0	
	家具・羽毛布団・CD	—	820	5,120	7,490	3,870	
	フロン回収品	2,080	2,710	2,420	2,320	2,320	
	その他	70	1,340	—	1,010	620	
	小 計	492,080	463,930	459,810	496,150	453,590	
乾電池・蛍光管	33,700	35,220	31,110	37,780	34,260		
中 計	525,780	499,150	490,920	533,930	487,850		
計	17,266,822	17,093,352	16,481,488	16,092,316	16,622,803		
⑯ 資源化量	⑬+⑭+⑮	49,539,957	47,770,922	46,478,078	45,954,476	46,772,668	
⑰ 資源集団回収量		8,226,110	7,900,590	7,614,913	7,300,684	6,925,947	
総資源化量	⑯+⑰	57,766,067	55,671,512	54,092,991	53,255,160	53,698,615	

※令和元年度(2019年度)は上記とは別に、令和元年度東日本台風で発生した345,400kgの市内の災害廃棄物(災害等廃棄物処理事業費国庫補助金交付要綱の適用を受けて処理を行ったもの)から80,221kgを資源化している。

※多摩清掃工場

非磁性物/落塵灰等(R1~) …平成30年度(2018年度)までは非磁性物のみ、令和元年度(2019年度)以降は非磁性物、落塵灰

※戸吹不燃物処理センター

鉄 ……処理困難鉄、処理磁性  
 非鉄金属 ……アルミ等、選別金属  
 基板等 ……小型家電由来の電子回路基板、携帯電話  
 スプレー缶等 ……スプレー缶、ライター、炭酸ガスボンベ  
 その他 ……コンクリートブロック、バッテリー、バイクなど、不法投棄ごみ等からの資源物

※多摩清掃工場不燃・粗大処理施設

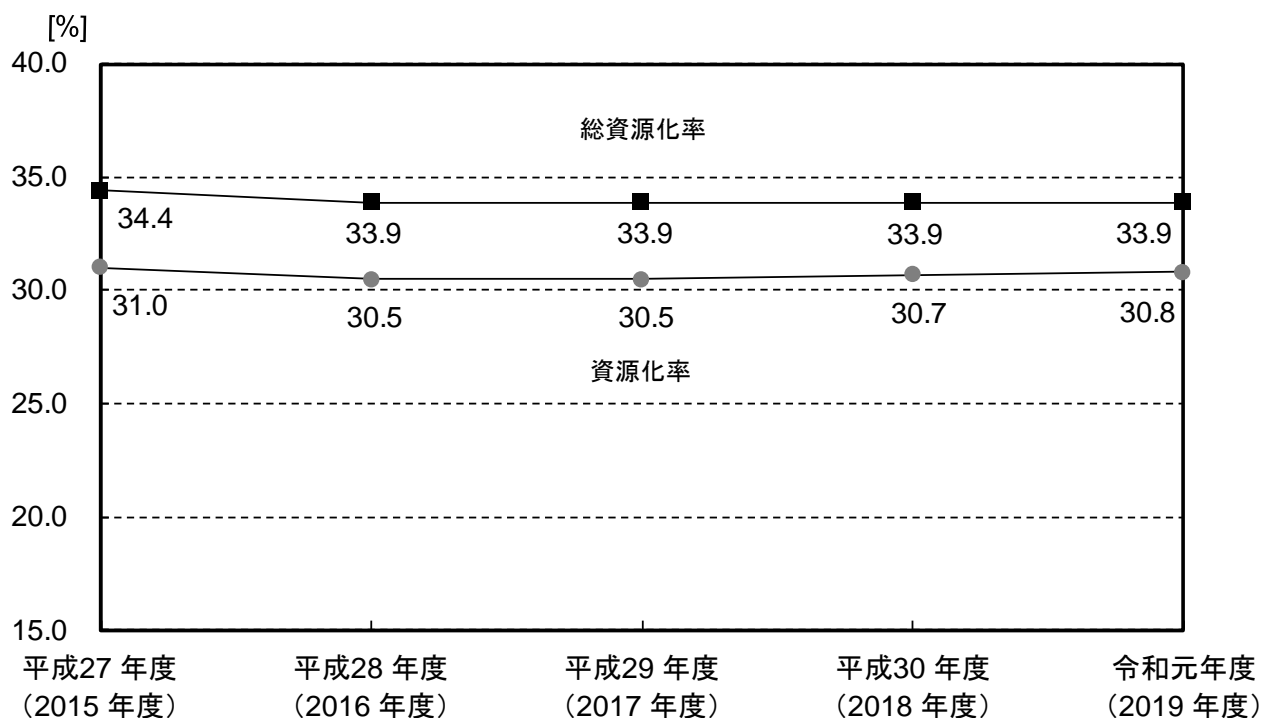
鉄 ……鉄類(処理後のスプレー缶分も含む)  
 非鉄金属 ……アルミ類(処理後のスプレー缶分も含む)、銅管  
 基板等 ……小型家電由来の電子回路基板、携帯電話  
 その他 ……バッテリー、消火器など、不法投棄ごみ等からの資源物

(6) 収集量・持込量と資源化量 (表 4-6)

単位 [t]

区 分	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)
A 収集ごみ量 ②+③+④+⑤+⑦+⑧	92,991	93,283	91,209	90,636	91,328
B 持込ごみ量 ⑨+⑩+⑪	33,030	30,967	29,353	27,680	28,601
C 収集・持込資源物回収量 ⑥+⑫	33,682	32,154	31,618	31,369	31,783
D 収集・持込資源物資源化量 ⑬+⑭	32,273	30,677	29,996	29,862	30,150
E 中間処理後の資源化量 ⑮	17,267	17,094	16,482	16,092	16,623
F 資源集団回収量 ⑰	8,226	7,901	7,615	7,301	6,926
G ごみ量 A+B+C	159,703	156,404	152,180	149,685	151,712
H 総ごみ量 A+B+C+F	167,929	164,305	159,795	156,986	158,638
I 資源化量 D+E	49,540	47,771	46,478	45,954	46,773
J 総資源化量 D+E+F	57,766	55,672	54,093	53,255	53,699

(7) 総資源化率及び資源化率の推移 (図 4-1)



※総資源化率及び資源化率の算出方法

$$\text{総資源化率} [\%] = \frac{\text{総資源化量 J}}{\text{総ごみ量 H}} = \frac{\text{資源物資源化量 D} + \text{中間処理後の資源化量 E} + \text{資源集団回収量 F}}{\text{収集ごみ量 A} + \text{持込ごみ量 B} + \text{資源物回収量 C} + \text{資源集団回収量 F}}$$

$$\text{資源化率} [\%] = \frac{\text{資源化量 I}}{\text{ごみ量 G}} = \frac{\text{資源物資源化量 D} + \text{中間処理後の資源化量 E}}{\text{収集ごみ量 A} + \text{持込ごみ量 B} + \text{資源物回収量 C}}$$

2 各種データ

(1) 収集量・持込量の施設別搬入実績（令和元年度（2019年度））（表4-7）

単位 [t]

区 分		搬 入 先						計	
		焼 却 施 設			不燃・粗大処理施設		資 源 化 施 設		
		戸 吹 清 掃 工 場	北 野 清 掃 工 場	多 摩 清 掃 工 場	戸 吹 不 燃 物 理 セ ン タ ー	多 摩 清 掃 工 場	プ ラ ス チ ッ ク 資 源 化 セ ン タ ー		資 源 物 選 別 施 設
収 集	可 燃 ご み	35,292	23,634	24,765				83,691	
	不 燃 ご み				3,761	843		4,604	
	粗 大 ご み	976			931	679		2,586	
	有 害 ご み				286	66		352	
	資 源 物						8,181	23,198	31,379
	不 法 投 棄 ご み	4			10	1		15	
	側 溝 清 掃 ご み	48	32					80	
持 込	可 燃 ご み	25,036	439	2,504				27,979	
	不 燃 ご み				359	263		622	
	抛 点 資 源 物						404	404	
計		61,356	24,105	27,269	5,347	1,852	8,181	23,602	151,712

※上記とは別に、令和元年度東日本台風で発生した345tの市内の災害廃棄物（災害等廃棄物処理事業費国庫補助金交付要綱の適用を受けて処理を行ったもの）及び広域支援ごみ（栃木県鹿沼市：141t、宮城県大崎市：81t）を処理している。

(2) 施設別総搬入実績（令和元年度（2019年度））（表4-8）

単位 [t]

区 分		搬 入 先						計	
		焼 却 施 設			不燃・粗大処理施設		資 源 化 施 設		
		戸 吹 清 掃 工 場	北 野 清 掃 工 場	多 摩 清 掃 工 場	戸 吹 不 燃 物 理 セ ン タ ー	多 摩 清 掃 工 場	プ ラ ス チ ッ ク 資 源 化 セ ン タ ー		資 源 物 選 別 施 設
収 集 ・ 持 込 ご み		61,356	24,105	27,269	5,347	1,852	8,181	23,602	151,712
選 別 物		3,528		1,523	81				5,132
計		64,884	24,105	28,792	5,428	1,852	8,181	23,602	156,844

※上記とは別に、令和元年度東日本台風で発生した345tの市内の災害廃棄物（災害等廃棄物処理事業費国庫補助金交付要綱の適用を受けて処理を行ったもの）及び広域支援ごみ（栃木県鹿沼市：141t、宮城県大崎市：81t）を処理している。

(3) 焼却施設の実績（令和元年度（2019年度））（表 4-9）

単位 [t]

区 分	戸吹清掃工場		北野清掃工場		多摩清掃工場	計	
	災害廃棄物除く	災害廃棄物含む	災害廃棄物除く	災害廃棄物含む		災害廃棄物除く	災害廃棄物含む
稼働日数 [日]	356		310		325	—	
搬入量 (焼却量)	64,884 (64,208)	65,296 (64,600)	24,105 (23,975)	24,209 (24,079)	28,792 (28,640)	117,781 (116,823)	118,297 (117,319)
焼却残灰	エコセメント	7,043	7,079	2,725	2,725	3,073	12,841
	溶融固化物	60	155	7	18	97	164
金属分	425	425	55	55	251	731	731
埋立	—	—	—	—	—	—	—
搬出量	7,528	7,659	2,787	2,798	3,421	13,736	13,878
うち資源化量	7,528	7,659	2,787	2,798	3,421	13,736	13,878

※焼却残灰は全量資源化されている。  
 ※災害廃棄物とは災害等廃棄物処理事業費国庫補助金交付要綱の適用を受けて処理を行ったものをいう。  
 ※災害廃棄物の内数は以下の通り。  
 戸吹清掃工場  
 搬入量 : 市内 190 t、栃木県鹿沼市 141 t、宮城県大崎市 81 t  
 焼却量 : 市内 170 t、栃木県鹿沼市 141 t、宮城県大崎市 81 t  
 エコセメント : 宮城県大崎市 36 t  
 溶融固化物 : 市内 18 t、栃木県鹿沼市 77 t  
 うち資源化量 : 市内 18 t、栃木県鹿沼市 77 t、宮城県大崎市 36 t  
 北野清掃工場  
 搬入量 : 市内 104 t  
 焼却量 : 市内 104 t  
 溶融固化物 : 市内 11 t  
 うち資源化量 : 市内 11 t

(4) 不燃・粗大処理施設の実績（令和元年度（2019年度））（表 4-10）

単位 [t]

区 分	戸吹不燃物 処理センター		多摩清掃工場	計	
	災害廃棄物除く	災害廃棄物含む		災害廃棄物除く	災害廃棄物含む
稼働日数 [日]	219		209	—	
搬入量	5,428	5,505	1,852	7,280	7,357
有価物	1,924	1,955	450	2,374	2,405
非有価物 (乾電池・蛍光管委託処理)	572 (173)	592 (173)	38 (35)	610 (208)	630 (208)
埋立	—	—	—	—	—
可燃物	2,622	2,648	1,199	3,821	3,847
搬出量	5,118	5,195	1,687	6,805	6,882
うち資源化量	2,400	2,451	487	2,887	2,938

※（ ）は内数を表す。  
 ※搬入量と搬出量は、蒸発や一時保管等の理由で一致しない場合がある。  
 ※有価物には粗大再生品を含む。  
 ※可燃物は戸吹清掃工場及び多摩清掃工場で焼却処理する。  
 ※資源化量には、搬出した可燃物が焼却処理後に資源化される量含まない。  
 ※資源化量に粗大再生品、乾電池・蛍光管の資源化された量を含む。  
 ※災害廃棄物とは災害等廃棄物処理事業費国庫補助金交付要綱の適用を受けて処理を行ったものをいう。  
 ※災害廃棄物の内数は以下の通り。  
 戸吹不燃物処理センター  
 搬入量 : 市内 77 t  
 有価物 : 市内 31 t  
 非有価物 : 市内 20 t  
 可燃物 : 市内 26 t  
 うち資源化量 : 市内 51 t

(5) プラスチック資源化センターの実績（令和元年度（2019年度））（表 4-11）

単位 [t]

区 分	容器包装 プラスチック	ペットボトル	計
稼働日数 [日]	258	258	—
搬入量	6,107	2,074	8,181
再商品化量	5,228	1,661	6,889
可燃物	—	—	1,169
不燃物	—	—	6
搬出量	—	—	8,064
うち資源化量	—	—	6,889

※搬入量と搬出量は、蒸発や一時保管等の理由で一致しない場合がある。

※可燃物と不燃物は合わせて搬出しているため合計値のみを記載する。

※可燃物は戸吹清掃工場及び多摩清掃工場で焼却処理する。

※不燃物は戸吹不燃物処理センターで選別処理する。

※資源化量には、戸吹清掃工場と戸吹不燃物処理センターで処理され資源化される量を含まない。



## (6) ニツ塚最終処分場・エコセメント化施設年度別実績 (表 4-12)

区 分		平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)
不 燃	埋立重量 [t]	86	60	40	—	—
	埋立容量 [m <sup>3</sup> ]	88	61	40	—	—
残 渣	搬入配分量 [m <sup>3</sup> ]	248	268	144	103	83
	搬入配分貢献量 [m <sup>3</sup> ]	160	207	104	103	83
焼 却	埋立重量 [t]	—	—	—	—	—
	埋立容量 [m <sup>3</sup> ]	—	—	—	—	—
残 渣	エコセメント化 施設搬入量 [t]	13,220	12,945	12,519	12,244	12,841
	搬入配分量 [t]	11,060	11,124	10,658	11,178	11,177
	搬入配分貢献量 [t]	-2,160	-1,821	-1,861	-1,066	-1,664

※平成7年(1995年)3月から平成10年(1998年)4月までは谷戸沢処分場へ、それ以降はニツ塚処分場へ搬入している。

※搬入配分量とは東京たま広域資源循環組合が各組織団体に対して年度ごとに設定している廃棄物搬入量の目標値のことをいう。

※搬入配分貢献量とは搬入配分量から搬入実績量を差し引いたものをいう。

※上記とは別に、令和元年度東日本台風で発生した広域支援ごみ(宮城県大崎市:81t)の焼却残灰(36t)を、エコセメント化施設に搬入している。

## (7) 最終処分場搬入実績累積量 (表 4-13)

谷戸沢処分場搬入実績累積量 (平成6年度(1994年度)～平成10年度(1998年度))	68,926 m <sup>3</sup>
ニツ塚処分場搬入実績累積量 (平成9年度(1997年度)～令和元年度(2019年度))	182,575 m <sup>3</sup>
エコセメント化施設搬入実績累積量 (平成18年度(2006年度)～令和元年度(2019年度))	160,192 t

### 3 ごみ処理基本計画進捗状況

#### (1) ごみ処理基本計画概要

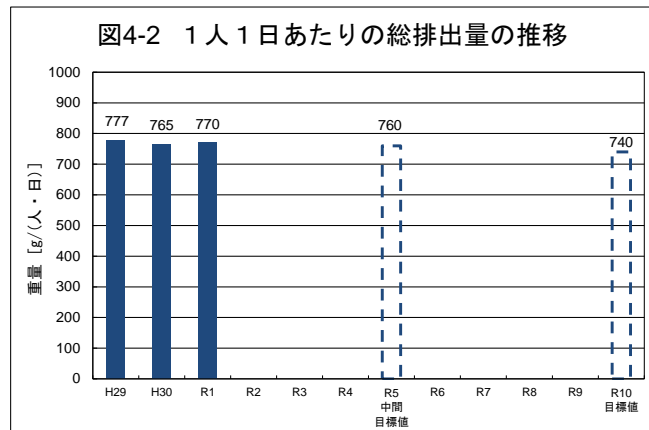
本市では、平成25年(2013年)3月に策定したごみ処理基本計画の見直しを行い、平成31年(2019年)3月に新たに「八王子市ごみ処理基本計画『循環型都市八王子プラン』」を策定した。本計画は、10年後の将来を見据えて市民及び事業者と市が自らの行動を継続的に取り組むための具体的な行動計画を示すもので、計画期間を令和元年度(2019年度)から令和10年度(2028年度)までの10年間とし、令和5年度(2023年度)を中間目標年度、令和10年度(2028年度)を目標年度とする。

#### (2) 計画の目標値と令和元年度(2019年度)実績

##### ア 1人1日あたりの総排出量

1人1日あたりの総排出量(総ごみ量の原単位 表4-1参照)を令和5年度(2023年度)までに760g以下、令和10年度(2028年度)までに740g以下に削減することを目標にしており、令和元年度(2019年度)実績は770gとなった。

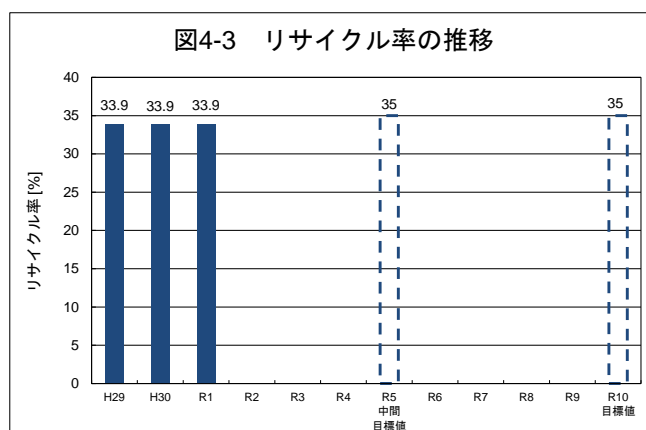
前年度比5gの増加となった主な要因は、事業系持込ごみの増加及び、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために行われた小中高校等の臨時休業などの影響で在宅時間が増えたことによる3月の家庭ごみの増加によるものと考えられる。



## イ リサイクル率

リサイクル率（総資源化率 図4-1 参照）を令和10年度（2028年度）時点で35%以上に引き上げることを目標としており、令和元年度（2019年度）実績は33.9%となった。

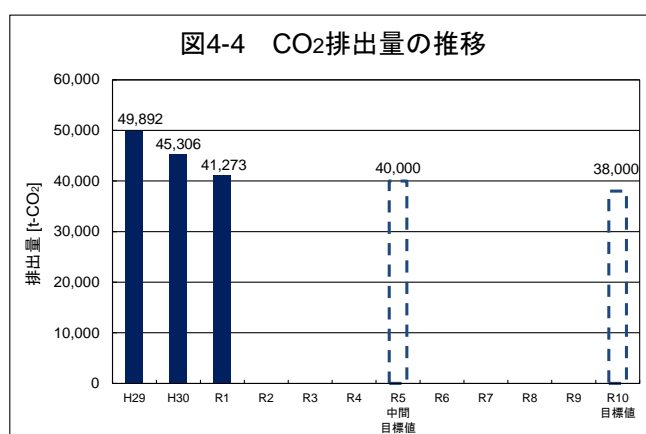
前年度と同等となった主な要因は、総ごみ量と総資源化量がともに増加したことによる。リサイクル率は重量をもとに算出されるが、近年は、紙面購読から電子端末を利用した購読の切り替えや、容器包装の軽量化等、全国的な動向として資源物そのものが減量している。一方で、令和元年度（2019年度）は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ観点から在宅時間が増えたことにより資源物を含む片づけごみが増加したものと考えられる。



## ウ CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）排出量

CO<sub>2</sub>排出量を令和5年度（2023年度）までに40,000 t以下、令和10年度（2028年度）までに38,000 t以下に引き下げることを目標としており、令和元年度（2019年度）実績は41,273 tとなった。

前年度比8.9%の減少となった主な要因は、戸吹清掃工場において平成30年（2018年）7月に発電用タービンの更新工事が完了したことで発電量が増加し、自己託送（同年8月から市施設への送電を開始）により、市施設でのCO<sub>2</sub>排出量削減に寄与したことによる。また、令和4年度（2022年度）には新館清掃施設が稼働し発電を開始することで、CO<sub>2</sub>排出量は今後さらに減少する見込みである。



※ごみ処理施設からの排出分及び収集車からの排出分を対象とする。  
 ※収集車については、直営分に加え委託分も対象とする。  
 ※清掃工場における売電分と自己託送分を差し引いた形で、排出分を算出する。

### 4 ごみ有料化後の状況

本市は、平成16年（2004年）10月から人口30万人以上の都市としては全国で初めてごみ有料化と戸別回収を同時に実施した。これを契機として市民の意識が高まり、ごみ減量への取り組みが行われたことにより、平成16年度（2004年度）から3年連続リサイクル率第1位、2年連続リデュース第1位（平成18年度（2006年度）は第2位）（人口50万人以上の都市）という成果を得ることができた。平成30年度（2018年度）については、リデュースは1位、リサイクル率は3位となった（環境省発表）。

表4-14：人口50万人以上都市のリデュース（1人1日あたりの総排出量）とリサイクル率全国順位の推移【環境省発表】

年 度	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018
リデュース	1位	1位	2位	3位	3位	2位	3位	2位	2位	2位	2位	1位	2位	1位	1位
リサイクル率	1位	1位	1位	2位	4位	6位	4位	2位	3位	3位	4位	3位	3位	4位	3位

※環境省発表のリサイクル率には、エコセメント化によるリサイクル量は含まれていない。

令和元年度（2019年度）は、ごみ有料化導入前の平成15年度（2003年度）と比較すると、可燃ごみの収集量（表4-1②）は21,841t、不燃ごみの収集量（表4-1③）は19,014t、可燃ごみと不燃ごみ合わせて40,855t、31.6%の減量となった。また、資源物の回収量（表4-1⑥⑫）は15,273t、92.5%増加している。

図4-5：可燃ごみ収集量、不燃ごみ収集量、資源物回収量、総ごみ量

